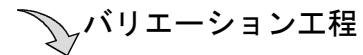
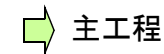


# eViP培地 シリーズ共通 培地作成法

easy-made Vitro Plants Media

熱湯を注いでかき混ぜるだけ！



粉末を98℃以上の熱湯で溶かすだけで塩類・糖・ゲル化剤・植調剤等を配合し、pHまで調整された滅菌培地ができます。

作成した培地は、置床前の貯蔵時にはほとんど微生物に再汚染されません（未公表データ。外植体置床時・置床後には再汚染されます）。

置床時および作成培地の置床前保存時の微生物汚染をより小さくしたい場合は  
付属の**vipSupporter**を0.1～0.2mL/培地1L 添加。

(4mLボトルの時1～2滴/培地500mL、20mLボトルの時1～2滴/培地1L)



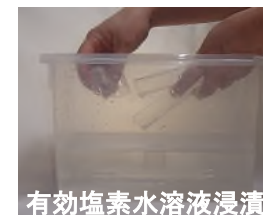
ごく一部の外植体には感受性があります

(**vipSupporter**中の殺菌成分では外植体の生育不良等は確認されていません)

・培養中の再侵入微生物による汚染防止の点から、**培養容器は0.06mm以上の厚さの軟質ポリエチレン袋を用い、植物の置床後は熱シールすることを推奨**。風雨がかかる屋外条件でも微生物の再汚染率は1/500以下(90×170mm、培地量30mL。2015年5月現在における結果)。ウイトロプランツが把握しているかぎり、培養中の再汚染率が最も低くなる。

なお、従来のマヨネーズ瓶、モルトン栓試験管、アルミ фольドで封じた三角フラスコ等は上記条件で数か月間培養すると、ほぼ100%再汚染される。

**微生物汚染容器の再利用など、培養容器に重度の微生物汚染が予想される場合は、蓋を含めた容器全体を有効塩素100～1000mg/Lの水溶液に浸漬し、十分に水切り後、容器が濡れている間に培地を分注する。**  
なお、水道水1Lあたり、付属の次亜塩素酸カルシウム剤なら2～20粒、アンチホルミンなら1mL程度の添加で有効塩素100～1000mg/Lの水溶液となる。



有効塩素水溶液浸漬

**培養容器が清浄な場合は不要です**



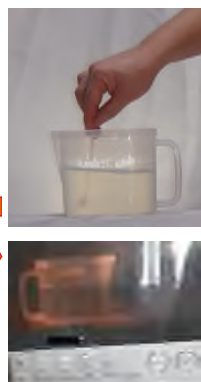
粉を容器に入れ

(上記例では1袋500mL分)



98℃以上の熱湯を注いで溶解し

(上記例では500mLにフィルアップ。ダマはできません)



果汁・シロ糖追加や放置などなんらかの理由で(目安70℃以下に)冷めたら再加熱



量が多い場合は煮沸しながらの分注を推奨

培養容器に分注します



培養容器を解放した状態で数日、仮封状態で1週間以上の貯蔵が可能です(乾燥等による変質に注意、1週間以上の貯蔵する場合は**vipSupporter**の使用を推奨)。

長期貯蔵は容器を封じた場合に可能です(仮封とは培養容器の開口部をラップで覆ったり、培養袋の口を折り曲げただけなどの状態を指します)。

ただし、培地冷却固化後に解放・仮封状態で貯蔵した期間がある場合は、クリーンベンチでの置床を推奨しません(微生物汚染)。

ウイトロプランツ製の**vip**などを用いて置床してください。

また、重度の微生物汚染が予想される培養容器を用いたにもかかわらず、培地分注前に培養容器を有効塩素水溶液に浸漬しなかった場合にも**vip**を用いて置床して下さい。

冷えて固まれば、置床可能  
置床は**vip**かクリーンベンチをご使用下さい